

貸借対照表(平成26年3月31日)

資産	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固定資産	4,286,469,541	9,782,309,574	11,267,569,756
有形固定資産	3,618,712,881	4,335,560,716	11,207,449,756
無形固定資産	46,660	5,446,748,858	60,120,000
投資	667,710,000	0	0
流動資産	1,229,476,402	601,286,238	703,947,646
現金預金	1,194,543,977	591,132,144	455,112,259
未収金	31,112,111	9,548,274	248,535,387
貯蔵品	3,390,796	305,820	0
その他流動資産	429,518	300,000	300,000
繰延勘定	6,483,280	0	12,812,400
開発費	6,483,280	0	12,812,400
資産合計	5,522,429,223	10,383,595,812	11,984,329,802

負債	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
固定負債	6,790,000	1,841,984,595	309,409,066
企業債	0	1,174,274,595	207,148,789
他会計借入金	0	667,710,000	0
引当金	6,790,000	0	44,156,277
庁舎建設負担金	0	0	58,104,000
流動負債	163,036,311	10,715,243	223,178,633
未払金	73,642,953	9,875,243	222,338,633
その他流動負債	89,393,358	840,000	840,000
負債計	169,826,311	1,852,699,838	532,587,699

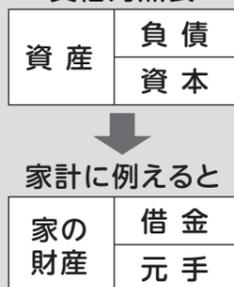
資本	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
資本金	1,824,938,117	7,198,926,379	3,110,986,006
自己資本金	1,073,360,211	2,862,914,037	0
借入資本金	751,577,906	4,336,012,342	3,110,986,006
剰余金	3,527,664,795	1,331,969,595	8,340,756,097
資本剰余金	3,132,396,165	1,805,711,874	8,207,281,525
利益剰余金	395,268,630	-	133,474,572
欠損金	-	473,742,279	-
資本計	5,352,602,912	8,530,895,974	11,451,742,103
負債・資本合計	5,522,429,223	10,383,595,812	11,984,329,802

貸借対照表って何？

財産状況を示すもので、経営する上で必要な資金をどのようにして集めて運用しているかを明らかにします。大きく分けると、「資産」「負債」「資本」に分かれます。「資産」が手持ちの財産内訳で、「負債」「資本」がその財産を取得したときの方法になります。このため「資産」と「負債」「資本」の金額合計は同じとなります。そのことからバランスシートとも呼ばれています。

分かりやすく家計に例えると、貸借対照表は、1年間やりくりした結果、年度末時点での家計の状況を示したものとなります。「資産」は、持っている土地や家などの財産、預金、現金などになります。「負債」は家のローンなどの借金になります。「資本」は家庭を築いたときの元手や、その年度の利益や損失が含まれます。

貸借対照表



損益計算書って何？

1年間の営業活動の内訳で「収益」と「費用」に分けることができ、その企業がいくらの「収益」を得て、いくらの「費用」が生じたのかを表したものです。また、その差引により、その年の利益(または損失)がいくらあったのかを知ることができます。

家計に例えると損益計算書は、家計を1年間やりくりした実績を表したものです。これにより1年間で黒字だったのか、赤字だったのかが分かります。「収益」は働いて得た給料などの収入や株の売却益などの臨時収入です。「費用」は家計における支出で、食費や電話代、保険料、借金の利息などです。全ての稼ぎから、全ての支出を差し引いたものが、黒字(または赤字)になります。

損益計算書



損益計算書(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収益	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
料金収入	438,305,797	470,858,994	470,464,604
その他営業収益	29,820,589	126,000	208,111,026
営業外収益	30,893,617	1,749,290	43,102,274
その他	0	0	0
収益合計	499,020,003	472,734,284	721,677,904

費用	水道事業	工業用水道事業	公共下水道事業
人件費	74,543,832	10,700,823	29,400,535
物件費	104,563,269	96,037,615	285,445,283
動力費	26,978,208	17,162,723	157,773
受水費	116,990,498	0	0
支払利息	20,955,087	125,331,164	77,388,964
減価償却費	140,491,834	220,495,733	308,368,386
その他	3,777,676	542,773	13,775,334
費用合計	488,300,404	470,270,831	714,536,275

純利益	10,719,599	2,463,453	7,141,629
------------	-------------------	------------------	------------------

(円、消費税および地方消費税抜き)

平成25年度
水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業
決算の概要

問い合わせ 上下水道局(業務課 ☎2193)



水道事業

給水人口の減少や節水意識の定着などによる使用水量の減少により、料金収入が年々減少し、経営的には非常に厳しい状況となっています。そうした中、いっそうの経費の節減などによる経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。将来の水道事業の目標や実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」に基づいて、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けて取り組んでいきます。

平成25年度の収益的収支は、収入総額4億9,902万3円、支出総額4億8,830万404円で、差し引き1,071万9,599円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)

工業用水道事業

旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費

公共下水道事業

が財政を大きく圧迫していましたが、平成20年度に締結された追加受水契約により財政面の改善が進んだことや資本費平準化債の起債を発行して起債償還額の平準化を図ったことで、今年度も利益を計上することができました。しかしながら、平成24年度で受水契約の一部が期間満了になるなど、料金収入が減少したため、厳しい経営環境となっています。今後も適切な施設の維持管理を行い、安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与するよう取り組んでいきます。

平成25年度の収益的収支は、収入総額4億7,273万4,284円、支出総額4億7,027万8,311円で、差し引き246万3,453円の純利益となりました。(消費税および地方消費税抜き)



度から包括的民間委託を導入するなど、経費の削減などによる経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。本市の公共下水道は、地方の大都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことで、事業認可区域内における整備はほぼ完了していますが、施設の老朽化が大きな課題となっています。そこで、今後の下水処理場やポンプ場などの施設の延命化と維持費の平準化などによる中長期的な費用の抑制を図るため、「下水道長寿命化計画」を策定しました。今後も、快適な生活環境の維持と公共用水域(海・川など)の水質保全に取り組んでいきます。

平成25年度決算書は市立図書館や情報公開コーナー(市役所本庁1階)でご覧いただけます。また、上下水道局では500円で販売しています。

上下水道局の会計
水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業の会計は、地方公営企業法に基づき、複式簿記・発生主義を基本とする企業会計を行っています。複式簿記とは、単に現金の増減記録(単式簿記)だけでなく、経済取引によって生じた「結果」とその「原因」の両面により記録する手法です。これにより効率的な運営をするために、業務の経営成績・財政状況を的確に把握し、業務の適正な評価をするために行っているものです。